

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国公民科・社会科教育研究会

(代表者 沖山 栄一 会員数 約1,000人)

T E L 03-3333-7771

1 前 文

学習指導要領が新しくなって最初の共通テストとなった。これまで、学習指導要領が改訂されて最初の年の大学入試センターが出題する試験は易化する傾向があると同時に、学習指導要領の基本的な考え方を十分踏まえた出題となる傾向があった。今回もその傾向は本試験のみならず追・再試験でも顕著で、「公共、政治・経済」の出題内容は極めて平易であり、学習指導要領の基本的な考え方を十分意識して出題されている。後期中等教育の学習内容を理解した上で、高等教育において学ぶ基礎基本が身につけているかどうかを確認し、基礎的基本的な確かな知識に基づき、広い視野から思考力判断力が備わっているかを問う出題となっている。出題分野の極端な偏りはない。以下、具体的に各問について意見と評価を申し述べる。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

試験問題の難易度は平易であり、「公共」及び「政治・経済」の授業を履修していれば容易に正答が得られると考えられる。設問数は、「公共」から2大問、8小問、「政治・経済」から4大問、24小問であり、解答時間に余裕はないものの決して答えられないほど時間がないわけではない。基礎的基本的な問いを中心に思考力判断力を働かせ、短時間に正確に読み解いて答える学力を重視しているという意図が伝わる。配点は基本的に各問3点配点で、思考力や判断力が問われる問いの配点を4点としているのも妥当である。形式は、基本的に、選択式であっても思考力や判断力を問えるように工夫してある。しかし、すべての可能性のある組合せを網羅的に示す選択肢の問いもあり、4択に絞って提示することに出題者側の出題のねらいを受験者に伝えるという意味があることを考えると、網羅的に選択肢を用意することが教育的なのかどうか、疑問は残る。

第1問 「公共」からの出題。新型コロナウイルス感染拡大を経験した二人の生徒が生命倫理の視点から話していることを読み、功利主義と義務論、人権保障の発展過程、地方自治と条例、契約を問う。

問1 功利主義に立つか義務論に立つかでどのように問題の捉え方が異なるかを問う基礎的基本的な問い。

問2 三つの考え方と「バージニア権利章典」もしくは「アメリカ独立宣言」、『権利章典』、モンテスキュー『法の精神』と思われる三つの資料を結びつける問い。知識で正解は得られるが思考力判断力で解ける力を問う。

問3 条例を例にパブリックコメント、自由権、幸福追求権についての基礎的基本的な知識を問う。単なる一问一答にならないように、会話文の文脈を正しく読み取れる力を前提にしている。

問4 契約についての正誤判定。平易。家庭科でも学習する範囲。

第2問 「公共」からの出題。社会保障に関する課題を若い世代としてどのように取り組むかを考えるという設定で、青年期、労働と社会保障などの分野の基礎的基本的な知識と確かな知識の理解に基づく思考力判断力が問われた。

問1 モラトリアム、通過儀礼など青年期の特徴に関する基礎的基本的な知識を具体例に即し

て問う。

問2 国民負担率と50歳までに行った老後の生活に向けてしていたことの調査から、スウェーデン、日本及びアメリカを推測するという思考力判断力の問い。アメリカの特徴として考えられる市場原理を最優先し、自己責任の国であること、株式保有の大きさ、国民負担率の低さなどから正答は容易。

問3 社会保障の在り方から公的年金制度について付加方式と積立方式を比較する。平易。

問4 若者による課題解決への提言を考える問い。セーフティネット、労災保険、ボランティアなどいずれも基礎的基本的な用語の知識が問われた。

第3問 自由で公正な社会の実現に向けて、法的アプローチと経済的アプローチから思考する。

問1 罪刑法定主義と遡及処罰の禁止について会話文の読解に基づき基礎的基本的な知識を問う。

問2 国会議員が全国民代表であることと国会議員ならではの特権があることの歴史的意義を資料読解から確認する思考力判断力の問い。

問3 司法権の独立について基礎的基本的な知識を問う。

問4 現代の資本主義経済における福祉国家の形成と新自由主義の台頭と弊害について資料読解に基づき用語を補充する。

問5 税の効果と役割について会話文の読解を前提に適切な用語を補充する。

問6 ジニ係数のグラフと会話文の読解を前提に現代日本社会の格差と是正を考える問い。単なる基礎的基本的な知識を問うことにならぬよう配慮されている。

第4問 イノベーションを主題に今日の日本の政治と経済を考える問題である。

問1 フィンテックが及ぼす日本経済への影響について会話文の読解を前提に考えさせる問い。

問2 バランスシート概念が理解できているかを問う基礎的基本的な知識の問い。

問3 ペイ・オフと債券の価値と利回りの関係について問う。平易ながら、間違える高校生はいるだろう。

問4 労働力需給の逼迫という今日的課題の解決を考える思考力判断力の問い。

問5 地方公共団体について、オンブズパーソン、道州制、住民投票及び条例の制定などの基礎的基本的知識を問う。

問6 行政機関について、内閣府、国家公安委員会、人事院、内閣人事局、政府委員、政務官などについての基礎的基本的な知識を問う。

第5問 少子高齢社会における課題と対策という主題の下に今日の日本の政治や経済に関する諸課題を考察する。

問1 労働力人口の図表の読み取り。平易。

問2 女性の年齢階級・就業形態別就業率と非正規の職員・従業員として就業している女性が現在の就業形態を選択した理由という二つの図表と会話文の読み取りに基づき、図表の示す意味を問う思考力判断力の問い。

問3 政策分野別社会支出の対GDP比とその内訳を示す図表と説明を読み、内訳の項目を決定する問い。思考力判断力を問う。

問4 選択的夫婦別姓に関する最高裁判所の判断についての資料を読み、会話文の読解に基づき最高裁判所の判断を読み解く思考力判断力の問い。

問5 憲法の生存権規定について基礎的基本的な知識を問う。

問6 選挙制度についての基礎的基本的な知識を問う。

第6問 国際社会の諸課題の解決策を考える思考力判断力の問い。

問1 ドル高の影響について基礎的基本的な知識を問う。

問2 二国間の緊張の高まりを回避する手立てを考える問い。

問3 2007年以来の国際収支の変化を示す図表を読み込み、変化の原因を考察する思考力判断力の問い。

問4 20世紀以後の外国為替をめぐる国際環境の展開を問う思考力判断力の問い。ブレトンウッズ体制、ニクソン・ショック、プラザ合意が問われた。

問5 グローバル・ヘルスの視点から資料の読解に基づき途上国支援の方策を考える。

問6 ESG投資の説明に該当するものを選ぶ。平易だが主題としては大切な問い。

3 総評・まとめ

受験者が基礎的基本的な知識を確認し、受験者が自ら獲得した知識を活用し、思考力や判断力を働かせ、今日に生きる私たちが抱える社会的な課題をいかに解決したらよいかを当事者意識をもって思考する力があるかを問うとともに思考しているかを問う問題である。問題はいずれも学習指導要領に示されている「公共」及び「政治・経済」で学習する範囲内であり、極端な難問や奇問はない。問題のリード文は高校生が調べたり学んだりしている状況から示されることが多い。これは高大接続を意識してのことであろう。しかし、高校生が学んだ内容を理解していれば読める1ページ程度の文章を読ませて考えさせるというセンター試験で長く出題されていた形式も復活しても良いのではないかな。ものを考えることの大切さを受験者に示す意味で思考力判断力を問う重厚な問題が一つあってもよいだろう。後期中等教育の学習が高等教育における研究へどう発展できるのかを高校生に示すことも教育的配慮であろう。

4 今後の共通テストへの要望

共通テストの高校現場への影響力は極めて大きい。出題者の意図を超えて出題者の意図とは異なったメッセージとして教育の現場に想定外のメッセージを伝えることになる場合さえある。それだけに、後期中等教育の健全な発展に資する質の高い問題を作成し続けてもらいたい。安易な問いは避け、基礎的基本的な知識を理解しているか、理解した知識を用いて大学で学ぶにふさわしいだけの思考力や判断力があるのかを判断できる問題を作成し続けてもらいたい。さらに、大学側から高校生へのメッセージとしての役割があることを踏まえ、リード文については高等学校の学びを想定したものだけでなく、エッセイとしても読み込むと社会科学の基本的理解が広がるような優れたリード文による問題も期待する。